

わが

人のつながりで磨かれる、
熱(エネルギー)あふれる美しいまち豊かな自然と
伝統が息づくまち

湯沢市は、秋田県の最南東部に位置し、秋田の南の玄関口として発展してきました。雄物川上流域に豊かな水田地帯を形成し、県境の西栗駒(にしりくこま)一带は、栗駒国定公園に属し、雄大な自然林を有しているほか、湯沢の名の通り豊富な温泉群にも恵まれた『いで湯』の郷であります。冬季には積雪が多く、最大積雪量は市街地で1m、



岩から熱湯が勢いよく吹き出る「小安峡大噴湯」

地熱のまち『ゆざわ』

本市は、国内でも有数な地熱賦存地帯であり、平成6年に上の岱(うへのだい)地熱発電所(出力2万8800kW)、令和元年に山葵沢地熱発電所(出力4万6199kW)が運転を開始しています。再生可能エネルギーを活用した地熱発電は、二酸化炭素(CO₂)の排出量がほとんどなく、地球環境にやさしいものであり、その発電出力は合計で一般家庭約14万世帯分の消費電力に相当し、運転開始から現在まで安定した電力供給を行って

います。このほか、地熱発電所の建設計画が二つあり、令和9年にかたつむり山発電所(出力1万4990kW)、令和11年に木地山(きじやま)地熱発電所(出力1万4999kW)が運転開始を目指しており、自然環境と資源の保全に配慮し開発を推進してまいります。

皆瀬(みなせ)地域では、地熱の恵みであ



一般家庭約9万世帯分を発電する山葵沢地熱発電所

る温泉の産業利用に取り組んでおり、野菜などの乾燥や、三つ葉やパクチーのハウス栽培、暖房、融雪などに活用されているほか、温泉熱を利用した牛乳の低温殺菌製造などが行われています。また、地熱の豊かさは観光スポットとして、川底から高温の蒸気と温泉が噴き出ている小安峡大噴湯や、湯気や噴気で山肌が白くなった川原毛地獄などでも見ることができ、地熱のまち『ゆざわ』として注目されています。

ゼロカーボンシティ宣言

令和4年6月28日、湯沢市と
同市議会、湯沢商工会議所、ゆざ
わ小町商工会の4者共同で、
2050年までに二酸化炭素排出
量を実質ゼロにする「脱炭素化」を
図り、先人から受け継がれてきた
「ふるさとゆざわ」の自然や文化を
未来に生きる子どもたちにつわか
りとなすため、ゼロカー
ボンシティ宣言を行いました。

市民、事業者、行政が一体とな
り「ごみの減量・節電・食品ロス削
減などのエコ活動の促進と支援」
「学校や地域団体でのセミナーの
開催」「充電スポット整備や公用車
へのEV導入」「再エネ電力の導入
促進」などに取り組むほか、長期



令和4年6月28日に行われたゼロカーボンシティ宣言



伝承が守り継がれる7人の小町娘

急激に進む人
口減少や超高齢
化社会など、わ
が国の社会経済
や地球環境への

「湯沢市複合公共
施設」の令和8
年10月の開館に
向けた取り組み
を進め、にぎわ
いを創出してま
います。

的には、公共交通機関・業務用車な
どの電動化、木材の安定供給体制
の構築や地域産材の利用などを推
進してまいります。また、地熱電
力の地産地消による環境・経済・社
会の持続的な発展を目指し、オー
ルゆざわで脱炭素社会の実現に
向けて取り組んでまいります。

みんなで一緒に、和を もって湯沢の未来づくり

「湯沢市公共施設再編計画」に
基づき、施設が多機能化、複合化
を図るため、皆瀬庁舎機能に生涯
学習と診療所などの機能を加えた
「新皆瀬庁舎」の令和5年度開庁
と、生涯学習と図書館、子育て支
援、歴史資料展示、市民活動支援
の機能を有する「湯沢市複合公共

対策が迫られている中、「第2次
湯沢市総合振興計画」(平成29年
度から令和8年度)に掲げる将来
像「人のつながりで磨かれる、熱
(エネルギー)あふれる美しいま
ち」の実現のため、社会情勢の変
化に柔軟に対応し、次代を見据え
た持続可能なまちづくりを進めて
まいります。市民の皆さまの生活
がより良いものとなるよう、ウイ

プロフィール

◆ 面積 790.91km²
◆ 人口 4万1568人
◆ 世帯数 1万7597戸

〔将来都市像〕人のつながりで磨かれ
る、熱(エネルギー)あふれる美しい
まち

〔まちの特徴〕秋田県南の玄関口。県
境付近は栗駒国定公園に属し、雄大な
自然林を有しているほか、豊富な温泉
群に恵まれている

〔市町村合併〕平成17年3月22日、湯



湯沢市長
佐藤一夫



合併
沢市、稲川町、雄勝町、皆瀬村が対等
合併
〔特産品〕稲庭うどん、川連漆器、温泉、
日本酒、サクラソノ、セリ
〔観光〕泥湯温泉、川原毛地獄、小安
峡温泉、小安峡大噴湯、秋の宮温泉郷
〔イベント〕小町まつり、七夕絵ど
ろまつり、愛宕神社祭典大名行列、
犬っこまつり、全国まるごとうどん工
キスポ

ズコロナ・アフターコロナを踏ま
えた取り組みを念頭に、少子化対
策や関係人口の創出、若者・女性
が活躍できる共生社会の実現、デ
ジタル化の推進と行政情報の発信
強化、経済・物価情勢を踏まえた
地域を支える産業基盤の底上げな
どに取り組む、「みんなで一緒に、
和をもって湯沢の未来づくり」を
強力に推進してまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、
人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

心をひとつに
「躍動するとみさと」を目指して

北総台地の中央に位置する富里

市は、明治22年に13の村が合併し、13カ村を意味する「十三」と、豊かな郷土にとの願いが込められた「富」をかけて「富里村」と命名されました。その後は、村から町へと発展し、東関東自動車



市制20周年記念ロゴマーク

道富里インターチェンジの開設や成田空港の開港を経て、平成14年4月に千葉県内33番目の市として誕生し、令和4年4月に市制20周年を迎えることが



全国に誇る「富里すいか」

できました。

すいかのまち とみさと

本市は、豊富な自然に包まれ肥沃な農地や自然環境の中で、日本を代表する首都圏近郊の優良な農業地帯として発展してきました。

中でも、富里といえば「スイカ」といわれるくらい栽培が盛んに行われ、全国を代表する農作物として親しまれています。

歴史をたどりますと、昭和初期において天皇へ献上するなど数々の歴史を残し、北総台地の特産品として揺るぎない地位を占め、現在は市町村別農業産出額で全国第2位を誇っています。

「富里すいか」の最盛期である6月には、全国から多数のランナーが集う「富里スイカロードレース大会」を開催し、コース上



全国から多数のランナーが集う「スイカロードレース」

にスイカ補給ができる「給スイカ所」を設置するなど、多くのファンが「富里すいか」を求めて集まります。

また、令和3年には、全国初となる「富里市すいか条例」を制定し、生産者、事業者、市民、行政が心をひとつに「富里すいか」を守り育てています。

現代によりがえる末廣農場

かつて富里には、三菱の三代目社長を務めた岩崎久彌が心血を注いだ「末廣農場」という広大な農場がありました。残念ながら第二次世界大戦後に閉場してしまいましたが、これを今に伝える国登録有形文化財「旧岩崎家末廣別邸」が所在しています。

現在、これらの建物の敷地を「旧岩崎久彌末廣農場別邸公園」として公開しており、より多くの方々に楽しみながら富里の歴史の一端に触れていただけるように努めています。

また、地域のほぼ中心に位置するこの場所を「にぎわい核」として、歴史を生かしたまちづくりを観光という新たな視点を加えて、富里の魅力を発信する観光・交流拠点施設「末廣農場」が誕生しました。

今後は、より多くの来訪者に楽しんでいただけるような、コンテンツの充実に取り組んでいきます。

特色あるまちづくり

〔デマンド交通のリニューアル〕

新デマンド交通は、全市民を対象とした「乗降ポイント方式」と70歳以上の市民を対象とした「ドア・ツー・ドア方式」を同時に運行しており、市域に接する移動ニーズの高い市外の駅や病院、商業施設への新規乗り入れを実現しました。

「鉄道駅のない富里市」にとって重要な取り組みであることから、今後も持続可能な公共交通の実現を目指していきます。

〔積極的な企業誘致策の展開〕

「企業立地サポート制度」を制定し、企業誘致専門員や企業立地支援制度によるサポートなどにより、成田国際空港の機能強化によ

る産業集積や就業人口などの増加に対応した土地利用の誘導を目指しています。

また、土地利用の促進を図るため、市街化区域については用途地域的大幅な見直しを行い、市街化調整区域については「市街化調整区域における土地利用方針及び地区計画ガイドライン」の改定を行うなど、企業立地の受け皿づくりに取り組んでいます。

そのような中、本ガイドラインに沿った都市計画提案制度を活用し、企業による本社移転や複合型商業施設の立地などが進み、積極的な企業誘致が実を結び始めております。

〔とみさとエナジー〕による新たなまちづくり

公共施設の電気料金削減と事業により生み出された利益をまちづくりに還元する新たな取り組みとして、本市とアジア航測株式会社および総合警備保障株式会社の3社で「合同会社とみさとエナジー」を設立いたしました。



旧岩崎久彌末廣農場別邸公園



観光・交流拠点施設「末廣農場」

令和3年4月から事業を開始し

ており、安定的な供給が図られる官民連携事業の新たな展開として、今後も合同会社とみさとエナジーによるまちづくり事業に期待を寄せています。

とみさと元気なまち宣言

本市は、今後も躍動する富里であり続けるために、希望と活力がある元気なまちに発展するよう、令和4年10月に行われた市制20周年記念セレモニーにて「とみさと

元気なまち宣言」を行いました。

宣言は、「食・運動・地域」の三つを柱とし、これらに関する取り組みを相互に展開することで、「自分らしくいきいきと暮らせるまち」を目指すものです。

今後は、この宣言を踏まえ、全ての市民と心をひとつにして、富里の未来に向けてまちの力を掘り起こすとともに、ふるさと富里への誇りと愛着を持ち続けていただけるよう、住みよい豊かなまちを築いてまいります。

プロフィール

◆ 面積 53・88 km²

◆ 人口 4万9,439人

◆ 世帯数 2万4,187世帯

〔将来都市像〕心ひとつに 未来に向かって飛び立つ 躍動のとみさと

〔まちの特徴〕緑が多く自然豊かであり、日本の空の玄関「成田空港」に隣接し、外国人人口比率が県内1位のまち



富里市長
五十嵐博文



〔特産品〕スイカ、ニンジン、梨、豚肉（房総ポーク）

〔観光〕旧岩崎久彌末廣農場別邸公園、観光・交流拠点施設「末廣農場」

〔イベント〕富里スイカロードレース、富里すいかフェア、富里にんじんウォーク

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

人と人がつながり 幸せが循環するまちづくり

朝来市は、兵庫県のほぼ中央部に位置し、京阪神からは鉄道、高速道路などを利用しておよそ1時間半～2時間で、また、姫路からはJR播但線や播但連絡道路などを利用しておよそ1時間で直結する距離にあり、但馬・山陰地方と京阪神大都市圏を結ぶ交通の要衝の地にあります。

四季折々の豊かな自然に囲まれ、古代から中世を経て近世にかけての歴史、産業遺産を有効に利用しつつ、広域交流拠点のまちづくりを進めています。

歴史・産業遺産では、開坑から1200年の歴史を誇り、日本初の官営鉱山として日本の近代化を支えた生野鉱山があります。姫路・飾磨港から生野鉱山へ続く「銀の馬車道」、さらに神子畑鉱山、明延鉱山、中瀬鉱山へと続く「鉱石の道」

という南北一直線に貫く道があり、

鉱物資源大国日本の記憶へのストーリーが認められ、平成29年に日本遺産に認定されました。また、国史跡竹田城跡は、秋から冬にかけて早朝に円山川から立ち上がる川霧によって、あたかも雲の上に浮かんでいるように見える幻想的な景色が「日本のマチュピチュ」「天空の城」と呼ばれるようになり、多くの観光客が訪れています。

市民主役のまちづくり

平成21年に「朝来市自治基本条例」を制定し、「市民自らが考え行動し、ともに助け合いながらまちをつくる」を基本理念に市民自治のまちづくりを進めています。

この理念を具体化した取り組みとして、人口減少や少子高齢化が進展していく中において、住みよ

い地域を持続していくために、おむね小学校校区を単位として、地域内の多様な主体で構成された自治組織「地域自治協議会」を設立し、地域での身近な課題はできるだけ市民に近いところで主体的に解決するなど、地域の特性などを生かした地域づくりに取り組んでいます。この地域自治協議会は、市民自治を強化する仕組みであるとともに、本市における協働の基盤でもあります。

地域自治協議会をはじめとする市民主体のまちづくり活動は、持続可能なまちづくりにつながるだけでなく、そこで繰り広げられる市民一人一人が生き生きとまちで活躍する姿が本市の魅力となっています。また、まちで活躍する「ひと」に魅せられ、「まちの一員になりたい」との思いが、市外か



竹田城跡（冬景色雲海）

ら本市への移住につながっています。こうした強みをさらに育んでいくために、平成28年度から「ASAGOING人財育成プロジェクト」をスタートし、まちが学びの場となり、子どもから大人までの多様な学びを繰り広げ、市民の主体性、多様性、シビックプライドなどを醸成し、市民主体のまちづくり活動や経済活動を加速化し、本市の活力と魅力の創造につながっています。



あさご暮らし体験ツアー



あさご未来会議

近年、価値観やライフスタイルが多様化する中で、市民ニーズも多様化しています。あらゆる世代がそれぞれの強みを生かし合いながら、朝来市の活力や魅力を創造していくために、本市では「対話」を大切にしながらまちづくりを進めています。

「第3次朝来市総合計画」（令和4（11年度）の策定に当たり、多様な世代が参画する「あさご未来会議」をはじめとしてさまざまな対話の場を通して、本市の未来の方向性を定めていくことで、第3次朝来市総合計画で掲げる将来像「人と人がつながり幸せが循環するまち」や目指すまの姿は、市民一人一人にとって自分たちのあ

りたいまちの姿となり、誇りを持ち、共に推進していくことにもつながっています。また、こうした市民参画の場づくりは、市民一人一人の「自己実現と成長」「人や社会とのつながり」を育み、幸せの実感につながっていくまちづくりを進めています。

寄り添い、住んで良かった と思えるまちづくり

移住・定住の総合窓口の役割を担う「あさご暮らし応援室」を設置し、移住相談をはじめ新規就農希望の相談、起業の相談など関係部局と連携しながら、移住希望者の人、一人一人の希望に応えられるよう相談対応などを行っています。

本市では、都市部での移住イベント、市内現地を案内する個別ツアーや農業体験を組み合わせたツアーなど、本市の魅力を体験してもらうとともに、希望者のニーズに寄り添った対応をしており、興味を持たれた人には「あさご暮らし体験住宅」を利用いただき、朝来での暮らしを体験していただいています。

移住希望者が一歩踏み出せるよ

うに、本市ではそれぞれの段階で地域住民の皆さまや先輩移住者の皆さまと、移住希望者の皆さまをつなげる仲介を行っています。例えば、ある程度移住する地域を決められた皆さまには、事前に地域の自治会の皆さまとの面談を仲介する、起業希望者の皆さまに

は、すでに起業しておられる皆さまを紹介するなど、移住前から地域の皆さまとつながり、相談できる体制が取れるようにしています。今後とも地域が一体となった受け入れ体制の充実や仲間づくりの場の創出など、移住定住を推進します。

プロフィール

- ◆ 面積 403.06 km²
- ◆ 人口 2万8766人
- ◆ 世帯数 1万2313世帯

〔将来都市像〕人と人がつながり幸せが循環するまち／対話で拓く朝来市の未来

〔まちの特徴〕県中央部に位置し、京阪神から鉄道、高速道路を利用して約2時間の距離にあり、豊かな自然と数多くの遺産、そして雲海に代表される壮大な景色から「天空の城」と称される国史跡竹田城跡があるまち

〔市町村合併〕平成17年4月1日、生野町、和田山町、山東町、朝来町の4町が合併し誕生



朝来市長
藤岡 勇



〔特産品〕岩津ねぎ、但馬牛、黒大豆、枝豆、朝来みどり、生野紅茶、味噌、地酒 など

〔観光〕史跡生野銀山、国史跡竹田城跡、立雲峽、茶すり山古墳、国重要文化財神子畑鉄橋、神子畑選鉱場跡、あさご芸術の森美術館、SUGOMORIリゾート生野高原 など

〔イベント〕銀合のひな祭り、立雲峽桜まつり、生野銀山へいくろう祭、大町公園藤まつり、たたらぎダム湖マラソン大会、寺内さんざか踊り、生野秋祭り、竹田秋祭り など

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「^{つよ}剛くて、優しいまち」
次代を見据えたまちづくり

ちょうどいい、みつけた！

廿日市市は、広島県南西部に位置し、南は瀬戸内海から北は中国山地まで、まさに日本の縮図ともいえる多様な地理的特性と、日本三景「宮島」^{みやじま}、世界遺産「厳島神社」^{いつくしま}を擁する、自然・歴史・文化など多彩な魅力と資源にあふれるまちです。

沿岸部には、JR、広島電鉄の二つの鉄軌道があり、交通の便もよく、東に隣接する広島市、海や山へも車で30分圏内と好立地で、ショッピングのみならず、



厳島神社空撮

多種多様なアクティビティもあり、個々のライフスタイルにあった暮らしが見つかる、ちょうどいいまちです。

宮島を次世代に引き継ぐために……宮島訪問税！

宮島は国際観光地として、コロナ禍前の平成30年に465万人の来訪者を迎え、過去最高を記録したものの、時季によってはオーバーツーリズムとなり、住民生活に影響が及ぶ状態となっていました。また、コロナ禍によって、観光に対する人々の価値観が変化する中、宮島を持続可能な観光地域とするため「宮島ルネサンス計画」を策定し、事業に取り組んでいます。

また、宮島の100年の大計として、令和2年に「宮島まちづく

り基本構想」を策定し、これに基づく取り組みを進める中で、令和3年に宮島のまち並みが国の重要な伝統的建造物群保存地区に選定されました。

私たちには、先人から受け継いだ宮島を後世に引き継いでいく使命があり、先で述べた計画は、これに対する市の姿勢の一つです。

平成20年以降、法定外税の導入について議論を重ねてきました。過去に2度、導入を見送った経緯がありますが、宮島のまちづくりには必要不可欠な要素であり、3度目の議論では制度を1から見直し、関係省庁や市議会、事業者、住民など、多くの議論を重ねた結果、念願が叶い「法定外普通税」としての導入が決まり、令和5年10月1日から徴収を開始します。

神の島へと誘う玄関口
「宮島口地区整備事業」

宮島訪問税を法定外普通税とした要因の一つに、宮島の玄関口である宮島口の整備があります。観光シーズンには、全国各地から多くの人が訪れます。大変うれしく思う反面、対岸の宮島口では交通問題が発生し、地域住民にとって長年の懸案となっています。

本市は、平成15年、平成17年の2度にわたり、1市3町1村による合併を果たし、そのスケールメリットとして宮島口の整備が動き始め、



宮島口ターミナル（工事中）

（広島県提供 R4.9.30撮影）



女子野球（佐伯高校）

「ホームタウン」へと転換させたいと考えています。まさに「剛くて優しいまち」です。市役所周辺をシビッ

スポーツを核としたまちづくりースポーツが人と人をつなぐー

広島市のベッドタウンとして発展してきた経緯のある本市ですが、これからの廿日市市を、仕事、出産から子育て、買い物など、生活の全てが一つのまちで完結する

平成28年には「宮島口地区まちづくりランドデザイン」が策定され、これを基に広島県が宮島口旅客ターミナルや緑地、市がアクセス道やロータリー、軌道電車事業者が駅舎・軌道の移設と立体駐車場の整備にそれぞれが着手し、あと数年のうちに完了を迎えます。

旅客ターミナルを核に、交通の円滑化や良好な景観形成、観光交流施設としてのにぎわい創出など、国際観光地宮島の玄関口にふさわしいまちづくりを進めています。

クオアとした大きなエンジンに見立て、そこで得られた富を各地域へ波及させるまちづくりを進めています。その中で、新たな企業誘致や沿岸部の住工混在を解消するための事業用地の開発や、合併前の各地域への拠点形成の取り組みなどを進めているところです。

また、まちづくりのもう一つの形として「スポーツを核にしたまちづくり」を掲げた取り組みを進めています。この発端は「女子野球」です。市内の県立高校に女子硬式野球部があり、令和2年12月に全日本女子野球連盟から「女子野球タウン」の認定を受けました。これに合わせて、社会人の女子硬式野球チームが誕生したことも追い風となり、今や女子野球の中心地となっています。

広島といえば、「赤ヘル・カープ」が思い浮かぶことでしょう。私自身もカープのファンです。佐伯地域には野球場を備えたスポーツ公園がありますが、老朽化や設備に不足があり令和5年度から改修工事に着手します。年3回程度はウエスタン・リーグを誘致したいと考えています。野球だけがスポーツではありません。昨年、バ

スケットボールBリーグの広島ドラゴンフライズの練習拠点が佐伯地域に完成しました。

広島には、サンフレッチェ広島（サッカー）、JTサンダース（バレーボール）、メイプルレックス（ハンドボール）、レッドスパークス（ホッケー）などが有り、プロスポーツが盛んな土地柄です。観戦の際は、広島勢の応援もお願いします。

プロフィール

- ◆ 面積 489.49km²
- ◆ 人口 11万6360人
- ◆ 世帯数 5万3020世帯

〔将来都市像〕 挑戦！ 豊かさや活力あるまち はつかいちー夢と希望をもつて世界へ！

〔まちの特徴〕 沿岸部・内陸部・山間部・島しょ部から構成され、自然に恵まれ、歴史・文化・産業・地域資源の面において多様性を持つまち

〔市町村合併〕 平成15年3月1日、廿



廿日市市長
松本太郎



日市市、佐伯町、吉和村（編入合併）・平成17年11月3日、廿日市市、大野町、宮島町（編入合併）

〔特産品〕 けん玉、もみじ饅頭、カキ、アサリ、ホウレンソウ、ワサビ

〔観光〕 厳島神社（大鳥居）、弥山、千畳閣、宮島水族館、紅葉谷公園、大聖院霊火堂（弘法大師消えすの火）

〔イベント〕 宮島清盛まつり、鎮火祭、かきまつり、けん玉ワールドカップ、桜まつり



ドラフラベース（広島ドラゴンフライズ）

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」による。
人口・世帯数は「住民基本台帳」による。